



御所見通信

第 3 号
2023. 5. 31
藤沢市立御所見小学校
校長 加瀬 良一

藤の花の時季も終わり、紫陽花の季節を迎えようとしています。5月24日に、6年生の市全体の行事である体育大会が善行の県立スポーツセンター陸上競技場で行われました。昨年度同様に市内全校を3分割にし、12校約1300人の児童が集まって実施しました。子どもたちの頑張る姿やたくさんの笑顔を見ることができました。また、声を出しての応援ができるようになったことで、子どもたちのやる気を一層感じることもできました。きっと思い出に残る大会になったことと思います。6月は他の学年も、遠足、見学、体験等の行事が予定されています。普段の学習と併せ、子どもたちが行事を通して様々なことを学び、成長してくれるよう教育活動の充実に努めていきたいと思っています。

さて、今年度のPTA総会も書面開催となりました。4年前に保護者のみなさんが集まって行った総会の際の、校長挨拶でのお話（「子育て四訓」）をご紹介しますと思います。

保護者のみなさんに問題です。「子育てに関して次のA～Dにはどんな言葉が入るでしょうか？」少し考えてみてください。

- 一、乳児はしっかり A を離すな
- 二、幼児は A を離せ B を離すな
- 三、少年は B を離せ C を離すな
- 四、青年は C を離せ D を離すな



学校教育目標

豊かに学び育つ御所見の子

～ えがお かがやき ささえあい ～

育てたい
子どもの
姿

- 自分で考えずすんで取り組む子
- 夢に向かってがんばる子
- 自分も友だちも大切にする子
- 自律し、健康な心身をつくる子



答えは、A「肌」、B「手」、C「目」、D「心」です。その意味を説明しますと、
「乳児はしっかり肌を離すな」

出生と同時に赤ちゃんは外界に出て不安になります。その心の安定を保つためにも、しっかりと肌と肌を触れ合わせることが大切です。しっかりと抱かれることによって、赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ、信頼し安心します。それが、愛情や信頼、情緒安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤につながるのです。

「幼児は肌を離せ手を離すな」

幼児は乳離れをしますが、一気に離すのではなく、常に親がそばにすることで、「心配しなくてもいいよ」という安心感を与えることが大切です。周囲のものに注意や関心が生まれるころで、自立させるための第一段階になる時期です。自立に目覚める幼児期は、完全な保護から社会に向けて一歩を踏み出す時期といえます。

「少年は手を離せ目を離すな」

少年は、友達との関わりによって社会性が育つ時期なので、ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてあげる必要があります。ただし、いろいろな危険があるので、目を離してはいけません。この時期場合によっては、子どもが親に反抗したり、非行や問題行動に走ったり、様々なことで苦しい思いをするかもしれません。しかし、それは成長の過程です。親として逃げることなく、共に成長することを心がける必要があります。子どもの荒れの背景には、親や友人に『こちらを向いてほしい』というメッセージが隠れていることが多いです。



